

おかもときどうけんしょうじぎょう
岡本綺堂顕彰事業

だい かい かいだん
第4回こども怪談コンクール



文学創造都市
おかやま

ぷち ぷち

おうぼ かた
ご応募いただいた方には、
きねんひん
記念品をプレゼント！

こわい話はなし

さく ひん ぼ し ゅ う
作品募集

たいしょう しょうがくせい ちゅうがくせい
対象：小学生・中学生

ねん
2025 年

がつ 1 にち (日)
6 月 1 日 (日)

がつ 31 にち (木)
~ 7 月 31 日 (木)

ひっチャク
必着

ぼく
僕らは最高に怖い話を作ってしまったかもしれない

もと
求む。
800 字以内のこわい話。

しんさいいんちょう
審査委員長
ひがしまさお
東雅夫
アンソロジスト
ぶんげいひょうろんか
文芸評論家



勝央美術文学館
SHOO MUSEUM OF THE ARTS

「ぷち」とは、岡山の方で「すぐく」「たいへん」という意味です。

主催：勝央町、勝央町教育委員会

ぷちぷちこわいはなしー僕らは最高に怖い話を作ってしまったかもしれないー

勝央町ゆかりの劇作家 岡本綺堂を顕彰し、怪奇小説作家でもあった綺堂にちなんで全国の小学生の皆さんから「こわい話」を募集します。お化けや幽霊、妖怪、はたまた名も無い何か… 私たちとは違う怪しい存在たちが引き起こす不思議でぞっとするこわい話、お待ちしています。

対象

小学生・中学生

応募規定

応募作品は、日本語で書かれた 800 文字以内の作品で、
本人が創作した未発表のもの、1 人 1 点に限ります。

データでのご応募に限り。(※保護者による文字入力の補助は可とします)

ご応募はウェブ応募フォームからのデータ送信のみ受付します。

持ち込み・郵送は受付しません。

作品の最後に「おわり」の 3 文字を入力してください。

(※この 3 文字は作品には含まれません)

作品データを下記のウェブ応募フォーム二次元コードから、もしくは、
勝央美術文学館ウェブサイト内のリンクから、送信してご応募ください。

【学校単位での応募について】※入賞後は、個人情報提供が必要となります。

団体応募の様式 (Excel) は当館ウェブサイトからダウンロードでき
ます。詳細はウェブサイトをご参照ください。

賞

小学生の部・中学生の部、それぞれの優秀作品を表彰します。

◆特 賞 各 1 名…賞状、副賞として図書カード 1 万円分

◆優秀賞 各 1 名…賞状、副賞として図書カード 5 千円分

◆入 選 各 4 名程度…賞状、副賞として図書カード千円分

◆佳 作 各 4 名程度…賞状、副賞として図書カード 5 百円分

※入賞作品を掲載した作品集を発行します。

受付期間

令和 7 年 6 月 1 日 (日)～7 月 31 日 (木) 必着

発表

令和 7 年 9 月中旬 (予定) 勝央美術文学館ウェブサイト上で発表

表彰

令和 7 年 10 月 12 日 (日) 勝央美術文学館で行う予定です。

注意事項

※入賞作品の著作権は、原作者と主催者に帰属します。

※入賞作品は、岡本綺堂顕彰事業に使用されることがあります。

※応募作品は、勝央町の出版物などに無償で利用できるものとします。

※選考についての問い合わせには応じられません。

※盗作・類似・流用等、著作権に触れるものは審査の対象外とし、表彰後
でも受賞を取り消します。

応募方法

※データでのご応募に限り！

【ウェブ応募】応募フォームはこちらから→

※二次元コードが読み取れない場合は、勝央美術文学館ウェブサイトの当コンクール

「作品募集のお知らせ」のページ内にあるリンクからご応募ください。

※応募者の個人情報は、コンクールの運営に必要な範囲内でのみ使用します。



審査委員長



岡本綺堂 (おかもと・きどう)

1872 年 東京・高輪生まれ。本名 敬二。幼い頃から漢詩や英語を学び、中学在学中に劇作家を志す。

1890 年、新聞社に入社。記者の傍ら劇評も担当した。

1908 年、二代目市川左團次の一座に「維新前後」を執筆。以降、左團次に多くの戯曲を書く。『半七捕物帳』・『青蛙堂鬼談』など、推理物・怪奇物も長く読ま

れている。後進の劇作家を育てるため、1930 年、雑誌『舞臺』を創刊。1939 年逝去。門下には大村嘉代子、額田六福ら多くの作家が出ている。最後の直弟子で勝央町出身の岡本経一は養嗣子。

東雅夫 (ひがし・まさお)

1958 年、神奈川県横浜須賀生まれ。アンソロジスト、文芸評論家。早稲田大学文学部卒。1982 年より「幻想文学」、2004 年より「幽」の編集長を歴任。

2011 年、『遠野物語と怪談の時代』で第 64 回日本

推理作家協会賞を受賞。著書に『百物語の怪談史』

(角川ソフィア文庫) ほか、編纂書に『文豪ノ怪談

ジュニア・セレクション』(汐文社) ほか多数、監修

書に『怪談えほん』(岩崎書店) ほか。最新刊に、

泉鏡花『外科室・天守物語』(新潮文庫)『怪獣談』

(平凡社ライブラリー) など。

第四回こども怪談コンクールに向けて

東 雅 夫

岡山県の勝央美術文学館が主催する、作家・岡本綺堂顕彰のための催し「こども怪談コンクール ぷち ぷち こわいはなし」も、早いもので今年で第四回を迎えます。

怪談の名手だった綺堂にちなみ、上限八〇〇文字で書かれた「小さな怪談」作品を公募するというユニークな発想から生まれたこの文学賞は、発祥の地である岡山県ばかりでなく、全国の小・中学校へと広がりを示し、多くの優れた作品が寄せられるようになりました。

一読、背筋がゾットするような「怖い怪談」を執筆する……これは容易なことではありません。アツと驚く斬新な着想と、読者の興味を繋ぎとめる巧緻な筆の牙えが、あって初めて、可能となることなのです。まさに「文学の極意は怪談にあり!」(文豪・佐藤春夫の言葉) であると言えるでしょう。

小・中学生の皆さんが、この難関に挑戦し、大人たちも驚くような見事な作品を生み出してきた事実は、本当に素晴らしいことだと思います。

審査委員長を拝命する私も、今年はどのような「新しい恐怖」と出えるのか、今から楽しみでなりません。ぜひとも多くの皆さんの、ふるっての御応募をお待ちしたいと思っています。さあ、新たな「恐怖の扉」を開くのは、今これを読んでいるアナタかも知れませんか！

お問い合わせ

勝央美術文学館 ※月曜休館 (祝日の場合は翌平日)

〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田 207-4

電話: 0868-38-0270 (火～金) 10:00～17:00)

E-mail: shoomuse@town.shoo.okayama.jp

http://museum.town.shoo.lg.jp

勝央美術文学館
公式サイト

